

拡大特集

つなげて見直す  
聞くことと発音の  
指導

Part 1 音に親しみ、やり取りのなかで聞く指導

# 小学校でSmall Talkを聞かせる時に 気をつけたいこと

佐藤玲子 Sato Reiko  
(明星大学教授)

Small Talk は児童が既習の英語表現を使って、指導者のまとまった話を聞くことや指導者と児童のやり取りから児童同士でのやり取りに発展していくものであり、児童が「そうなんだあ〜」と思う状況や本当のことを話したくなる状況を作り出しながら行うものです。その際、簡単な文を使った指導者の短い話・児童とのやり取りからのインプットや recast を大切に、児童が指導者の語り掛けに思わず応答してしまうような「やり取り」を体験させたいものです。そのためには、まず指導者が何を話しているのだろうと児童が耳を傾けたい Small Talk の最初の掴みが重要になります。他に、コミュニケーションの目的・場面・状況の設定、使用する英語表現や recast、英語らしい音への配慮も必要です。

児童が英語での話や指導者の問いかけを理解するためには、コミュニケーションの目的・場面・状況の設定をすることが重要です。児童は、自分の知っている英語の音から指導者の言っていることを推測することができますが、指導者が聞かせたい英語表現だけで Small Talk を唐突に始めると、児童は戸惑うこともあるでしょう。目的・場面・状況がうまく設定されていると、英語で言われていることについて児童の理解は進みます。

指導者が Small Talk で使用する英語表現については、一度にいろいろな英語表現を使わなくても、1つの英語表現（例えば、動詞）を肯定文、否定文、疑問文（Yes/No question, what のような疑問詞を使った疑問文）、現在形、過去形にして使うことで、豊かなやり取りになります。そして、児童の発話の後の教師の recast や簡単な相づち（Wow, Really!/? , I see., That's right., etc.）をす

ることで、さらに続けていくことができます。

特に聞かせたい音については、英語のプロソデューが挙げられます。単語一つ一つの発音ばかりでなく、文レベルでの音の流れを事前に ALT に尋ねたり、教科書にある音源等を利用して可能な範囲で調べておきます。児童の日本語的な発音に対しては、やり取りを中断しないように英語らしい音を recast して聞かせます。

Small Talk の例を挙げていきましょう。

### ◆前時の学習+something new

授業の始めの Small Talk が上手いくと、児童が英語を使おうという気持ちを促すことができ、自然に学習目標表現の学習に進むことができます。

一例として、トッピングが選べるピザ屋を取り上げた Small Talk を紹介します。

T: Do you remember this pizza house? It is S-sensei's favorite pizza house.

(ピザのお店の写真を見せる)

I went to this pizza house last weekend. I wanted potato and corn as toppings.

(ピザの空き箱に厚紙に貼ったその時のピザの写真を入れておき、取り出して見せる)

This is my original pizza. It has potato and corn.

(いろいろなトッピングの写真あるいは教科書のイラストを見せ、選択肢を提示)

What toppings do you want?

S: (I want) Mushroom and corn.

T: You want mushroom and corn. Here you are. It is your original pizza. It has mushroom and corn.

Small Talk で、前時の復習 I want... と本時の導入 This is my original pizza. It has... が、自然な流れで扱えます。

実際の授業で児童は、前時に作成したピザのワークシートをピザの箱から出し、とても元気よく積極的に紹介していました。

### ◆話題の賞味期限

夏休みが終わって10日も経つと、夏休みについて取り上げても、児童の反応はそれほど良くありません。その場合、昨日や今朝の出来事の方が児童の記憶も鮮明で応答する反応も良くなります。

T: How are you today? I'm fine but hungry. I ate only one banana for breakfast this morning.

S1: Breakfast???

S2: This morning???

指導者は、すぐに日本語で意味を伝えるのではなく、日にちや時間を板書し、got up, washed my face, ate breakfast 等をジェスチャーと一緒に言いながら、今朝のことだ、朝ごはんのことだ、児童自ら気づき、意味が掴めるようにします。

T: I ate a banana for breakfast. Did you eat a banana for breakfast?

S: No.

T: You didn't eat a banana. What did you eat for breakfast?

S: パン!

T: You ate bread. I didn't eat bread. I ate a banana. あるいは、今朝見たものについて話すこともできます。

T: I saw a very big dog on the way to school this morning.

(家と学校の絵と、通勤中に見たものを描く)

I saw a big dog. What did you see this morning? Did you see a dog?

S: No. Cat.

T: You saw a cat. I saw a dog. I saw a big dog. Who saw a cat on the way to school this morning?

会話場面や状況がわかるようにして、児童とのやり取りを通して ate, saw を何度も聞かせていきます。この過程で、児童は単語レベルの応答から文レベルの応答ができるようになっていきます。

◎science は知っている6年生に chemistry を平易な英語でどう説明しようかと悩んでいます。(佐藤)

### ◆教師の本気度・感動や気持ちの共有

児童に人気の有名人や興味のあること、好きなこと等については、担任教師（HRT）はよくご存じです。それらを話題に取り上げて児童の心を強く掴むためには、Small Talk の出だしの工夫と「伝えたい、コミュニケーションを取りたい」という指導者の強い気持ちがなければなりません。

例えば、人参や茄子には様々な色をした品種がありますが、初めて見た時には驚いたり、面白いと思ったりするでしょう。それを Small Talk で取り上げるのであれば、「面白いもの見つけたよ!」という指導者の感動が伝わるように話し始めます。

T: I like carrots, you know. I found this carrot! (シルエットで見せる)

Please, guess. What color is the carrot?

S: Orange.

T: Is it orange? No, it isn't. Look. It is purple. I found another carrot. What color is this? Is it purple?

S: Yes. / No. White!

T: It is white? No, it isn't. What color is it? It is...

S: It is yellow.

T: That's right. This carrot is yellow.

This carrot is purple. This carrot is...

(いろいろな色の人参の写真、実物を見せる)

Carrots have many colors.

指導者の感動や気持ちを児童と共有できると、やり取りが生き生きとしてきます。また、上記のように指導者の話は1文、2文と短くても、やり取りをしながら話を進めていくことができます。そして、そのような Small Talk では、注意持続時間が短い児童も集中させることができます。

\* \* \*

最後になりましたが、文字については、耳で聞き慣れている英語、見て読める（音が想像できる）英語を、提示の必要がある場合に限って提示します。I went to... を使った Small Talk で、児童の何人かはどうも I want to... と言っていました。recast でなかなか気づかなかったのですが、went と want を板書して音を聞かせると、途端に went と言うようになりました。このように、文字が音を手助けすることがあります。